

「日本語表現」の「話す・聞く」授業を振り返って（事例報告）

近藤 伸彦 (Nobuhiko KONDO), 野波 侑里 (Yuri NONAMI)
CELL 教育研究所 (CELL Institute for Educational Development)

1. はじめに

大手前大学（以下、本学）では2007年から「日本語表現」という科目名で学生の日本語能力向上のための授業を開講してきた。本科目は初年次必修4科目の1つとして、「フレッシュマンセミナー」「英語表現」「情報活用」と並び実施され、春学期は「読む・書く」、秋学期は「話す・聞く」をテーマとした授業を展開してきた。しかし4年間続いた本科目は、2011年度から閉講となる。

そこで本稿は、初年次必修科目としての「日本語表現」が閉講になることを受け、2010年度秋学期の「話す・聞く」に焦点を充ててプレゼンテーションをはじめとする実施内容を振り返り、2011年度からの新カリキュラムへの示唆を与えることを目的とする。特に本科目の教育体制と受講学生のコメントを中心に考察を行う。具体的には、以下の項目について報告する。1) 2010年度秋学期（「話す・聞く」）における授業概要と、目標設定を明確にするための授業設計書に基づく授業運営方法を紹介する。2) 学生の実際の学習活動を Web 上の振り返りツールおよび最後の授業に学生が記入したコメントから振り返る。3) 学習成果と今後の課題を明確にする。

2. 「話す・聞く」の授業内容

2.1. 授業概要

2.1.1 シラバス

2010年度秋学期「話す・聞く」のシラバスにおける「授業のねらい」「授業の到達点・学習成果」および「授業計画」は次のとおりである。

【授業のねらい】

日本語は、自分の人生を描き、そしてその人生を進むうえで欠かせない基本的な言語ツールです。日本語表現では、日本語の美しさを見直し、そして他者の心を動かし、また、その多様性を理解し、さまざまな場面での表現方法を身につけることを目指し

ます。美しい表現にはリズムがあり、人の心を動かします。そして人の心を動かす表現とは、人を説得する文章です。具体的には、さまざまな日本語表現を分析し、その分析によって得られた結果を運用して、問題解決のための考える力、自己を表現する力、表現者としての日本語表現能力を育成します。

【授業の到達点・学習成果】

「書く・読む」「話す・聞く」という4つの言語活動を駆使した日本語表現を身につけます。そして、大学生として、また社会人として必要な創造性や分析能力（論理的思考）、プレゼンテーション能力を磨きます。自己と他者との関係を見つめなおし、またチームでのプレゼンテーションを通じて、チームワークを養います。

【授業計画】

- 第 1 回 話しことばの特徴
- 第 2 回 あいさつや受け答え、自己紹介
- 第 3 回 話しことばと音声の関係
- 第 4 回 話す時のポイントと良い聞き方
- 第 5 回 話す訓練、話上手になる方法
- 第 6 回 豊かな表現方法
- 第 7 回 正しい敬語表現
- 第 8 回 状況に応じた適切な敬語表現
- 第 9 回 さまざまな場面での敬語表現
- 第 10 回 電話対応と自己 PR
- 第 11 回 検定対策
- 第 12 回 「話しことば検定」模擬試験
- 第 13 回 検定対策
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 「話しことば検定」受験

2.1.2 検定試験の概要

授業の具体的かつ客観的な目標として、NPO 法人日本話しことば協会が主催する「話しことば検定」の3級を学生全員が受験し、さらに高いレベルを目指す学

生には2級の併願を可能とした。本検定試験の詳細は下記のとおりである。

【試験の区分と程度】

- ・3級:社会の中でよいコミュニケーションができ、ビジネスシーンにも適応できる、話しことばの基本的能力を持っている。
- ・2級:社会生活のさまざまな場面やビジネスシーンに的確に対応できる話しことばの能力を持っている。

【試験の領域】

- ・話す・聞くの基本と実践
- ・語彙・敬語・その他
- ・音声言語の知識と表現技術
- ・挨拶・受け答え・ビジネスシーンでの運用など
- ・スピーキング (2級のみ)

【試験の方法】

- ・筆記テスト 30分 (100点)
- ・リスニングテスト 30分 (100点)
- ・スピーキングテスト (2級のみ) 1人約3分
(事前にテーマを与えられる一分間スピーチと当日問題の2問である。ちなみに2010年度の一分間スピーチのテーマは、「心に残る一冊の本」。)

【合格基準】

- ・筆記・リスニングテスト:3級・2級とも同じテストを使用。それぞれ100点満点のうち3級は70点以上、2級は80点以上を合格の目安とする。
- ・スピーキングテスト:2級スピーキングテストはA・B・C・D・Eの5段階で評価し、C以上を合格の目安とする。

2.1.3 クラス編成とターム制

前述のように、授業の具体的な目標として「話しことば検定」の3級および2級を期末試験に設定し、3級は履修生全員、2級は希望者のみの受験とした。

目標に向けた適切な授業運営のために、クラス編成もそれに合った形で行った。具体的には、話しことば検定2級合格程度の実力獲得をめざすAコースと3級合格をめざすBコースを設定し、能力ではなく本人の意思によってクラス編成を行った。Aコースが15クラス(1クラスあたり約20名)、Bコースが17クラス(1クラスあたり約35名)の計32クラスが編成された。

また、他の必修科目と同様に半期15回の授業を5週

ごとの3つのタームに分けるターム制をとり、あるタームの授業を受けてコース変更を希望する場合には次のタームから別のクラスに移ることを可能とし、学生の学習意欲に柔軟に対応できるクラス編成を行った。

2.1.4 担当教員

本科目は、科目が設置された2007年当初から本科目を担当した教員と2010年度から初めて担当する教員数名が混じった形で、専任教員3名、非常勤講師11名の合計14名により担当された。専任教員は、プレゼンテーションの演習科目を他に担当している教員1名と、英語の教員2名であった。非常勤講師は、国語の教員の他に英語の教員、放送局のOB、元アナウンサー、俳優、そして専門が法学や演劇であるなどさまざまな分野の経歴を持つ講師が担当した。演劇・アナウンサー等「話す」ことを専門とする教員からは発声や発音方法の教え方について、また国語教員からは国語の専門家としての意見が授業前後のFDにおいて活発に情報交換されるなどした。

2.1.5 授業内容

授業の明確な目標を検定試験に設定したことから、授業のテキストには、日本語話しことば協会が出版する「話しことば検定 3級テキスト (CD付き)」を使用した。

授業内容は、学生に1人1回以上課せられる1分間スピーチと、テキストに添った講義および検定に関する演習を中心とした。2級受験を目指すAコースでは、3級のテキスト内容に加えて2級の内容も盛り込んだ授業を実施し、特に1分間スピーチの練習に関しては、全学生が全15回授業の中で2回は練習のための発表ができるように設定した。

2級受験者のスピーキングの指導については、授業担当の非常勤講師にチューターとしての授業外個人指導を依頼し、受験者はこの個人指導を数回受けてから試験に臨むことを可能にした。

授業外課題は毎週出題し、その内容は検定の筆記およびリスニング問題を念頭に置いた問題とした。

検定試験の結果については、第3章にて述べる。

2.2. 授業設計書と目標設定

2.2.1 授業設計書

2010年秋学期からは、シラバスよりもさらに詳細に回別の学習目標を設定した「授業設計書」を作成し、学生の学習活動を明確にした。以下に授業設計書における「秋学期の学習目標」と「回別学習目標」(例として第1回から第5回)を示す。前述したシラバスと比

較されたい。

【秋学期の学習目標】

- ・ 公的、私的な場面において、良好な人間関係を構築し保つために、適切な話しことばを用いることができる
- ・ 相手に自分を印象づける話しことばのテクニックを自己紹介およびプレゼンテーションの中で用いることができる

【回別学習目標】

[第 1 回]

- ・ 人間の心や行動に働きかける話しことばの機能を説明することができるようになる
- ・ 話しことばと書きことばの違いを説明できるようになる
- ・ 公の場と私的な場における会話表現の違いを説明することができるようになる

[第 2 回]

- ・ 公的・私的な場面においてマナーを守ったあいさつをすることができるようになる
- ・ タイミングの良い受け答えをできるようにになる
- ・ 自分を印象付けるエピソードを用いて自己紹介できるようになる

[第 3 回]

- ・ よい声のポイントを列挙できるようになる
- ・ 腹式呼吸法を意識して発声することができるようになる
- ・ 声の大きさ、高さ、速度、間、抑揚、プロミネンス、アクセントに注意して発声することができるようになる

[第 4 回]

- ・ よい話し手となるためのポイント（相手、場面、内容）を説明することができるようになる
- ・ 聞くときに留意するポイント（メモの活用、適切なあいづち）を実践できるようになる

[第 5 回]

- ・ 話上手になるために、話を三段構成法あるいは四段構成法で組み立てることができるようになる
- ・ 聞き手の心をつかむポイント（感情に訴える・話の切り出しを工夫する）を実践できるようになる

以上のような回別学習目標の明確化は、学生が目標を意識して授業を受けられるようにすることに加え、

複数教員で行われる授業において教員の意思を統一することを目的として実施したものである。

3. 学習活動の振り返り

3.1. 学習目標チェックシート

学生には前述の回別学習目標を意識させるために「学習目標チェックシート」を毎回配布し、授業の詳細に関する習熟度をチェックさせた。図 1 に第 3 回授業における学習目標チェックシートの例を示す。A、B クラス欄については、各クラスで「必ず達成」すべき項目を「◎」、「できれば達成」すべき項目を「○」として区別して示した。授業終了時には左の列のチェック欄へ、「できるようになった」場合は「○」、「大体できるようになった」場合は「△」、「まだできるようになっていない」場合は「×」を記入させた。

授業終了時には、毎回上記のような「○」、「△」、「×」というデジタルな形式の簡単なふりかえりを実施したが、授業後にはさらに、Web システムを使用して学習のアナログな振り返りを行った。これについては次節において述べる。

【学習目標 1 発声と発音】

チェック	項目	A クラス	B クラス
	発声と発音の仕組みを説明できるようになった (キーワード: 気管、声帯、振動)	◎	◎
	腹式呼吸の方法を説明できるようになった	◎	◎
	腹式呼吸の方法を理解し、できるようになった	◎	◎
	母音の発声方法 (口の形、開き具合) を説明し、発声できるようになった	◎	◎
	無声子音について説明できるようになった	◎	○
	日本語の音 拗音、促音、撥音とは何かを具体的に説明できるようになった	◎	◎
	滑舌法の目的を説明できるようになった	◎	◎

図 1 学習目標チェックシート (第 3 回から抜粋)

3.2. 「確認くんブログ」による学習活動の振り返り

3.2.1 「確認くんブログ」

本学開発の携帯電話対応 LMS 「確認くん®」の一モジュールとして「確認くんブログ」という振り返りツールがある。「確認くんブログ」は、毎回の授業での振り返りができるように設計されている。

この振り返り内容は、学生が実際に授業を受けた上で学び取ったことや感じたことの反映である。次項に振り返りの内容の一例を示す。

3.2.2 「確認くんブログ」での振り返り内容

下記は、学生が各回の授業内容や授業で感じたこと

を実際に「確認くんブログ」に記録した内容である。

各回の授業内容に関するコメント、および1分間スピーチに関するコメントを抜粋する。Appendix から、さらに詳細のコメントを参照されたい。

【授業内容について】

[第1回 話しことばの特徴]

- ・日本語表現のテーマが「読む・書く」から「話す・聞く」に変わるだけで考え方や特徴が変わることに奥深さを感じた。

[第2回 あいさつや受け答え、自己紹介]

- ・今日は、当たり前だと思っていた「あいさつ」のことを学びました。今日の授業を受けて、ついついあいさつを「どうも」ですましていることがあるなど改めて思いました。当たり前だと知ってはいても、実際はそんなにあいさつについて考えたことは無いなど感じました。

[第3回 話しことばと音声の関係]

- ・腹式呼吸の練習をしましたが、息すらうまく吸うことができず、運動不足だなど思いました。スピーチ練習で原稿忘れの人が、まったくスピーチできておらず、ちゃんと書いて練習しておこうと思いました。

[第4回 話す時のポイントと良い聞き方]

- ・Lead と Read の話を聞きました。話す側も聞く側も相手を思いやるのが大事だと思いました。いい話を聞けてよかったです。

[第5回 話す訓練、話上手になる方法]

- ・今日は、ターム末テストだった。悩んだ末にどうやら間違えたのが1問あったが、全体的にはまあまあできたと思う。学習の方は、話すときのポイントについて学んだ。フレッシュマンのインタビューの授業でも、直接役に立つらしいので、授業としてはもちろん、その辺も意識して学べたら良いと思う。

[第7回 正しい敬語表現]

- ・今回は敬語の勉強をしました。尊敬語と謙譲語の違いが今までずっとわからなかったのが教えてもらってよかったです！ 今回、リスニングの練習でだいぶ理解できたのでこれからも頑張りたいです。

[第8回 状況に応じた適切な敬語表現]

- ・敬語のよくありそうな間違った使い方をした。二重敬語のほかにも、さ入れ言葉など、やってし

まいそうな間違いがあったので、気をつけたい。

[第9回 さまざまな場面での敬語表現]

- ・少しずつ尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語を区別できるようになってきた。仕事場にふさわしい敬語表現がわかるようになった。

[第10回 電話対応と自己PR]

- ・電話対応は、バイトでしないといけないときがあるから、特にしっかりとできるようになりたいと思った。

[第14回 総復習]

- ・フレッシュマンセミナーでの発表を聞いていて、丁寧にお詫びをしているのに使い慣れていない感が丸出しで、逆に胡散臭くなっている人がいました。自然で使い慣れた敬語を使えるようになるには、授業から出た敬語を使わなくてはならないのですね。

[第15回 「話しことば検定」受験]

- ・1年間のこの授業を通して、日本の社会に出るうえで必要な、読む、書く、話す、聞くの基礎を身につけることができたと思う。授業自体もとても楽しかったです。ありがとうございました。

【1分間スピーチについて】

- ・自己紹介で、見た目だけでは分からない他人の一面を知ることができた。私は友達を作ることが苦手なので、こういった機会を大切にしたいと思っている。でも、いざ自分が自己紹介となると緊張して1分間もしゃべってられなさそう…。原稿用紙に言いたいことをちゃんとまとめておこう！
- ・1分間スピーチであがってしまい、はっきりと声を出せなかった。発声練習しておいた方が良かったらうか…
- ・他の人の自己紹介を聞いていると緊張感がとても伝わってきて良い刺激になります。次の自己紹介の時は手が遊ばないように気を付けて分かりやすい自己紹介をしたいです。
- ・何かの本で「緊張は自分を成長させるもの」だと書かれていたけどやっぱり緊張するのは嫌だ。でも、終わった後もう一度同じようなことがあったとき大丈夫そうだったと思った。
- ・今日はいよいよ、自己紹介文の発表の順番がまわってきた。思った以上に緊張してしまい、最後の方は声も若干震えていた気がする。途中から下書

きともずれていってしまい、アドリブも少し混ぜて、何とか無事終わったという感じである。特に気になったのは、先生も言っていたが、理論的にはある程度分かっているつもりだった、ポーズやプロミネンスがほとんど活用できなかったことだ。また、このような機会があればベンジしたいと思う。

- ・今回も自己紹介は当たらなかったけど皆のを聞いてたら、上手く喋ってる人は全く緊張してるように見えないし、印象深く頭に残った。面白くて興味を誘うような喋り方は見習いたいと思った。
- ・今日はみんなの前で自己紹介をしました。書いた紙を見ながら話していたので、ただ読んでいただけになってしまいました。咄嗟に自己紹介をする時などはメモなんてないのだから、これからは伝えられるようにしていきたいです。
- ・自己紹介も後半戦になってくると個性的な人が出てきて、聞いていてとても面白かったです。自分もコミカルな自己紹介にしても良かったのかな？ と思いました。
- ・今日は発表をして、先生に滑舌法をするように言われたので、練習しようと思った。

3.2.3 振り返り内容の考察

秋学期「話す・聞く」の授業は、プレゼンテーション能力やマナー向上をねらった多岐にわたる内容で構成されている。3.1 節にて述べたように、毎回の授業は「学習目標チェックシート」によって授業のポイントを確認したうえで行った。「確認くんブログ」での振り返り内容からは、授業のポイントを意識して授業に臨み、就職やアルバイト、その他の授業などと結びつけた形で、反省と今後の目標を踏まえた振り返りができていることがうかがえる。1 分間スピーチに関する振り返りも、自分自身のスピーチに関する振り返りだけでなく、他の学生のスピーチを聴いて感じたことや気づいたことを自らのスピーチの向上へとつなげているものもある。また、自らが行ったスピーチと、実際にそれまでの日本語表現の授業で学んだことを関連づけて、今後に向けた反省を書いている例もある。

具体的な目標として検定試験を掲げているにもかかわらず、目標設定シートにより、最終目標である「検定合格」ではなく、「話し方」や「スピーチ」「敬語の使い方」などより詳細な目標を一つずつ振り返り、それが身についていく過程を確認していることが注目に値する。

ただし、毎回の授業における「確認くんブログ」への記入は任意としていたため、比較的意欲の高い学生のデータであることをことわっておく。授業内容と実際のプレゼンテーションの場面との関連を見出し、能力向上のための振り返りや計画を促していくための仕掛けが必要なものと思われる。

3.3. 最終授業時の振り返り

秋学期の最後の授業の終わりに「1 年間の授業であなたが学んだこと」という題目で学生に原稿用紙 1 枚に自由記述を書かせ、合計で 581 名の回答を得た。前述の「確認くんブログ」のコメントと共に、「日本語表現」の「話す・聞く」において学生自身が「学んだ・得た」と思ったことが率直に表現されており、授業の教育効果を知る上で貴重な資料となる。

学生には原稿用紙に文章で書いてもらったが、その中から特に明確な内容について抜粋して、以下に分類して紹介する。特に回答の多かった順にコメントを紹介し、コメントの詳細については、Appendix にて示す。

- ・敬語について学ぶことができた…… 211 件
(尊敬語と謙譲語、丁寧語の違いについて学んだ、二重敬語の間違いに気がついた、敬語を使う難しさを知った、敬語の使い方間違いに気付いたなど)
- ・スピーチの方法を学ぶことができた (1 分間スピーチや自己紹介) …… 41 件
- ・発表やパブリックスピーキングの時の言葉づかいについて学ぶことができた…… 19 件
- ・日本語のポーズ・イントネーション・プロミネンスなどを学ぶことができた…… 18 件
- ・コミュニケーションの楽しさ、大切さを学んだ…… 13 件

最も多かったコメントが「敬語を学んだこと」についてであり、実際にアルバイトなど学外で直接影響のある内容について言及されていることが興味深い。さらに、1 分間スピーチについても、授業では学生は発表を 1 度しかしていないにも関わらず、授業で他の学生が発表することを「聴く」ことにより学ぶことも多かったようである。さらに、発表やパブリックスピーキングの話し方とプライベートスピーキングの話し方の違い、日本語特有のポーズやプロミネンス、さらには「話しことば」の授業を通して、コミュニケーションの楽しさ、そして大切さを学んだことも注目に値する。

4. 授業成果と今後の課題

4.1. 検定結果

前述のとおり 3 級は受講生全員が受験し、2 級については希望者のみが受験した。2 級の受験者は、全受講者 888 名のうち 160 名 (約 18%) であった。2 級合格程度の実力獲得を目指す A コースは 322 名であったが、併願受験料を支払う必要もあり、最後に受験を諦めた学生もいたようである。

ちなみに「日本語表現」ではじめて「話しことば検定」を実施した 2008 年度の 2 級受験希望者は 7 名であり、2009 年度は 91 名、そして今回の 2010 年度は 160 名と希望者は年々増えることになった。これには、2008 年度から継続して「日本語表現」を担当する教員自身が検定の内容を熟知し、学生に対して上位の検定受験を促すことへの自信が教育効果につながったものと思われる。検定結果は、2009 年は受験者の 3 級合格率が 87.4%、2 級合格率が 68.1%、2010 年は 3 級合格率が 85.9%、2 級合格率が 63.3% であった。

4.2. 学習活動による成果

第 3 章で紹介した各回の「学習目標チェックシート」と「確認くんブログ」から考察できることは、最終目標を外部評価の「検定合格」と設定したにもかかわらず、学生は具体的な内容をふりかえることにより、検定結果以上の学習成果を認識したことである。「学習目標チェックシート」と「確認くんブログ」によって、学生が「検定合格」という最終目標ではない学びのプロセスを可視化することができた。つまり「検定合格率」からは見えない部分が明らかになり、「検定合格率」だけが「成果」ではないことが示唆された。

さらに、授業で学んだことをアルバイトなどの学外で実践することにより、学生が「学び」を実感できることも明確になった。学習内容が授業外の実践の中で使えるということに関する学生の興味は非常に大きく、「社会を意識したコミュニケーション」に関心を持っていることがわかる。

また、「日本語表現」の「話す・聞く」で学んだことは、他の初年次必修科目である「フレッシュマンセミナー」での「インタビュープロジェクト」や、「情報活用」における「プレゼンテーション実習」にも役立つものと思われる。このような科目間連携により、検定試験を目標にした知識偏重の内容にとどまらず、学習内容を活かすための貴重な実践の場を作ることができる。一つの科目で学んだ内容は他の科目において実

践することによって活かされ、学生自身のスキルとして定着することになる。

4.3. 今後の課題～新カリキュラムを見据えて～

2011 年度入学生からの新カリキュラムにおいては、「卒業生の質保証」として 3 つの項目が明確に打ち立てられた。それぞれ、1) リベラルアーツ型教育における専門性を身につけている、2) 社会人基礎力を身につけている、3) 上記二つを統合し、ひろく一般から認められる「就業力」を身につけていることを目に見える形で実証できる、である。さらに 3) については「課題 (①就職、②大学院合格、③コンテスト入賞等) を達成するために、初対面の相手 (外部評価員) に 5 分間のプレゼンテーションと 20 分間の質疑応答を行い、課題を達成できると判定される」と具体的な実践項目が学生に課せられることとなった。

この卒業時のプレゼンテーション能力の目標達成のためには、4 年間を通したあらゆる授業での取り組みが必須である。「日本語表現」という科目が閉講になることとなったことも、日本語表現能力は 1 つの科目のみにおいて習得できるものではなく、4 年間のカリキュラム全体において、あらゆる授業の中で育成していくものであるという考えによる。2011 年度からの新カリキュラムにおいては、必修コア教育科目として、1~2 年次に「キャリアデザイン」、3 年次に「ゼミナール」、4 年次に「卒業研究」を設置し、4 年間を通した就業力育成を念頭においたキャリアデザイン教育が実施されるが、こうしたコア科目だけでは学生の学習成果を期待することは難しい。学生の就業力育成のためには、「確認くんブログ」の振り返りでもわかるように、毎回の授業での一つ一つの学びを明確にし、それが社会で役に立つという実感を積み重ねることで学習意欲を高めることと、全学をあげて科目間の連携を密にした教育によりそれがさらに身につけていくという 4 年間の学びの設計が必要であると思われる。

また、2011 年度からは、プレゼンテーション映像を定期的に記録し蓄積・評価を経て能力向上へつなげていく「映像ポートフォリオ」の取り組みが始まる。これはプレゼンテーションの学習プロセスの「可視化」にあたる。前節で述べた通り「目標達成シート」や「確認くんブログ」から学習プロセスの「可視化」が可能となったように、学習プロセスの「可視化」はキャリア教育には欠かせないものであると思われる。

5. おわりに

本学にて2007年度から始まった「日本語表現」科目は2010年度をもって閉講となる。しかし、その実施を通して得られた学生の学びや気づきのコメントなどからは、今後就業力育成のためのキャリア教育に活かすことのできる結果が多く得られた。

プレゼンテーション能力ひいては就業力の育成のためには、学生の「学外活動」を念頭においた授業運営を考え、コア教育科目で学んだ基礎的な知識を他の科目で実践するという連携を4年間のカリキュラムに埋め込むことが必要であると考えられる。

謝辞

本稿は大手前大学初年次必修科目、特に「日本語表現」に関する取り組みについて考察したものである。本稿の執筆にあたり多大なる助言を賜った奥田雅信准教授、および授業を立案されたコーディネーターや担当された非常勤講師と専任講師など本取り組みに携わったすべての方々に謝意を表します。

Appendix)

1) 「確認くんブログ」での振り返り内容の例

【授業内容について】

[第1回 話しことばの特徴]

- ・日本語って難しいなあと感じました。
- ・話すということはコミュニケーションの第一歩であり、重要なのだとよくわかった。

[第2回 あいさつや受け答え、自己紹介]

- ・挨拶について学んだ。お辞儀の仕方については、通常の挨拶なら15度など、知らないことばかりで勉強になった。最近、挨拶はお辞儀の前か後か思い出せなかったので、先言後礼というのを改めて知ることができた。
- ・自己紹介とあいさつや受け答えの仕方について勉強しました。就職のために必要なのでしっかり覚えたいです。

[第4回 話す時のポイントと良い聞き方]

- ・今まで授業や人の話をきくときは「聞く」だった気がするので、これからは「聴く」ようにしようと思う。
- ・今回は話す時のポイントと聞き方について学びました。話し手は聞き手に伝わるように話し、聞き手は話し手の話している内容をしっかりと聴くことが大切だと思いました。次回の第1ターム

末テスト、頑張ります。

[第6回 豊かな表現方法]

- ・今日は言葉の選び方・表現の方法という内容だった。主に、主語や述語の配置の仕方、同音語・類音語、助詞の使い方、副詞の呼応などの言葉のつながり方、などについて学んだ。期末の試験に向けて、覚えるべき慣用句・ことわざ・四字熟語はたくさんある。あと、今日は初めて、日本語のリスニングを行った。今までの経験でも、日本語のリスニングは珍しい経験だと思う。

[第7回 正しい敬語表現]

- ・「場面に応じて慣用句、ことわざ、四字熟語を選択し、話しことばに適切に盛り込むことができるようになる」は、大体出来ると思う。だが、敬語が苦手なのでしっかり勉強しなければと思った。

[第8回 状況に応じた適切な敬語表現]

- ・敬語を使うとき、「自分側」、「相手側」をしっかりと把握しておきたい。

[第9回 さまざまな場面での敬語表現]

- ・少しずつ尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語を区別できるようになってきた。仕事場にふさわしい敬語表現がわかるようになった。

[第10回 電話対応と自己PR]

- ・コミュニケーションでの大事なことがわかった。変に相手を意識しすぎると自分が緊張してしまい、相手も緊張してしまうので落ち着くことが大切だと思った。
- ・今回は、一応テキストの最終章である「話し言葉の実際」について学んだ。扱った内容としては、「電話」と、「自己PR」などについてだった。ちなみに自己PRのPRとは、パブリック・リレーションズ(Public Relations: 公的な交渉)の略らしい。自己PRでは、自分を客観的かつ論理的、具体的に話すことが重要である。電話に関しては、思った以上のマナーの多さに少し驚いた。
- ・電話では、相手の顔が見えないから良いのではなくて、いないからこそしっかりと話をしないと聞けないことが分かった。

[第12回 「話しことば検定」模擬試験]

- ・模擬試験で簡単なミスが多かったので、きちんと本番までに対策しておきたいと思います。
- ・思っていたよりできていた事に驚きです。できた所とできなかった所がはっきりしていました。撥音みたいな所ができていなかったです。

[第13回 検定対策]

- ・第2ターム末テストが返ってきたのですが、尊敬語や謙譲語をもう一度復習すべきだなと思いました。あと、リスニングの力ももう少し付けるべきだとも思いました。

[第14回 総復習]

- ・今まで学んだことをこれからどうやって活かそうかということを考える機会があり良かったと思っています。
- ・今までのことを無駄にせずに広げていきたいと思えます。

[第15回 「話しことば検定」受験]

- ・テストだったので、合格したとかどうかわかりません。落ちたとしても話し言葉検定は一生涯ものです。

【一分間スピーチについて】

- ・スピーチ(?)をするのって実は難しいことなんだなあと思いました。私はあがり症なので、これからの為にも克服できるように頑張りたいです。
- ・まだ自己紹介してないけどやった人ののを参考にします。自己紹介のとき紙みて話してるので見ずに前向いて自己紹介できるようにします。
- ・大きな声で言うことに気をつけてスピーチをしたけど録音してみると声は小さめだったので次はもっと大きな声で!
- ・自分の発表の中で、〇〇さんの聴く姿勢を見習いたい、と感じました。今までは、視線があると余計に緊張するので好きではなかったのですが、やさしい表情、目線向けて聴く、という姿勢は、発表する側にとっても何となく落ち着くものだと感じました。自分も人の話を、表情を付けて聴く姿勢、というものを身につけたいと思いました。
- ・今回心に残る一冊の発表が回ってきました。緊張しましたがとりあえず詰まらずには言えたと思います。ただ逆にさらっとしすぎたため、先生から頂いたアドバイスをよく考えて改良したいと思えます。
- ・スピーチの時、声に笑顔をと言われて自分の欠けている部分は良くわかったけれども、なかなか上手いきません。でもこの機会にボソボソ話すことを克服したいです。先生みたいにならなりたいです!
- ・検定のスピーチの対策をして、私は2級を受けな

いので発表はしなかったのですが、発表者に先生がコメントをしていたことで、私自身にも参考になることがあったので、自分が発表する機会があれば活かしたいなと思いました。

- ・発表中は、伝わりやすいよう大きく、はっきりとした発声を心がけた。本番でも声を出していきたい。
- ・今日は2級の話し言葉検定を受ける人のスピーチを聞きました。私は受けないが、文章を覚えようとするのではなく、伝えたいことを出し切ることが大切なんだと感じました。今度英語で文章見ずに発表というがあるので、そこで活かせばいいと思いました。
- ・急遽、「冬休み」のことについての1分間スピーチをすることになり、焦りました。しかし、なんとかスラスラと皆に聞こえる声でスピーチすることができたので良かったです。

2) 最終授業時の振り返り内容の例

【「話す・聞く」の内容に関するコメント】

- ・正しい日本語の使い方 4件
- ・相手の発言を聴くことを学んだ 3件
- ・自分の意見を相手にうまく伝えること 3件
- ・言葉のキャッチボールについて学んだ 2件
- ・アイコンタクトを学んだ 2件
- ・「書く」と「話す」の違いを学んだ 1件
- ・文字として具現化することのむずかしさ 1件
- ・検定というわかりやすい目標がよかった 1件
- ・人との信頼関係のための言葉 1件
- ・あいさつの大切さを知った 1件

【「日本語に対する気づき」に関するコメント】

- ・日本語の持つ奥深さを知った 13件
- ・日本語の大切さを知った 1件
- ・日本語の素晴らしさ、面白さを学んだ 1件
- ・日本語の種類が多さへの驚き 1件
- ・日本語の難しさ 1件

【「学習態度」に関するコメント】

- ・出席の大切さ 4件
- ・遅刻や欠席をせずに頑張れた 1件
- ・課題をするのが大変だったが、力がついた 1件
- ・生活習慣を見直すきっかけとなった 1件
- ・知識よりも達成感を味わった 1件
- ・少し自信を持つことができた 1件